

# ニジェール支所便り

## 2017年2月号

【編集長】山形支所長 【編集担当】佐々木企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### 今月のピックアップ



- 支所からのひとこと ～今月のニジェール短歌～
- 1月の支所の活動紹介 ～「みんなの学校プロジェクト・フェーズ2」始動！～
- ニジェール国内の出来事 ～ニコニコおじさん、ライバル現る!? ニアメの熾烈な(?)食堂事情～

### 支所からのひとこと ～今月のニジェール短歌～

砂の海渡る人らが仰ぎ見る  
春告げに去る歳多の翼

この暮れ正月の休みは、セネガルの海辺にある国立公園で骨休めさせていただきました。ここはヨーロッパからの渡り鳥の営巣地で、ここで子育てをし、4月頃に若鳥を連れてまた北へと旅立つのだそうです。

昨年10月号で書いたとおり、ニジェールはアフリカからヨーロッパへ移住する人たちの中継地となっています。移住が良い悪いは別にして、彼らが移動中砂漠や海で命を落とさないことを、渡り鳥の雛を見て強く願いました。

「みんなの学校」協力が始まった初期に小学生だった女性が、今学校の先生になり、「夢が叶った」と語るビデオを先日テレビで放映してもらいました。さらに多くの子供たちが夢を叶え、羽ばたけたらと期待しています。



山形支所長

## 1月の支所の活動紹介 ～「みんなの学校プロジェクト・フェーズ2」始動！～

ニジェールに「みんなの学校プロジェクト」が戻ってきました。支所便りにも、半年ぶりの登場です。今回のプロジェクト名は「みんなの学校プロジェクト・フェーズ2」です。2016年12月より3年4か月の期間で実施されます。



2004年に開始されたニジェールのみんなの学校プロジェクトは、その第1、第2フェーズで住民参加による教育改善へ向けた様々な取り組みを支援し、ニジェールにおける教育へのアクセス改善に貢献してきました。その成果を背景に、行政の支援を受けつつ、さらに住民が教育開発、特に「教育の質」の改善にも貢献できるような支援を行ってきたのが、2016年5月に終了した「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」です。

本プロジェクトは、前フェーズで開発に取り組み、成果を上げた「初等教育における児童の基礎学力向上のための教育開発モデル(質のミニмумパッケージ)」と「中等前期教育における機能する学校運営委員会モデル」を発展、拡大、普及し、ニジェールの基礎教育のアクセスの改善を支援します。

今回、この稿を書く機会をいただいたので、住民参加を基盤としている「みんなの学校プロジェクト」が、なぜ、あまり得意そうではない学習の質の改善を目指すようになったのかを、お話ししたいと思います。

その最大の理由は、住民、保護者の高い学習の質の改善ニーズに応えるためでした。親も住民も学校の低い学習の質が問題であることは、ニジェールのほとんどの学校が毎年作成する学校活動計画の中で、教科書や副教材、文房具の購入、教員の研修参加支援など、学習の質の改善にかかる活動を多く取り上げていたことでわかっていました。(しかし、彼らの活動は成果を上げることはできませんでした。)

次の理由は、プロジェクトがニジェールの「学習の危機」という状況を目のあたりにして、なんとかしなければと強く思ったことです。UNESCOの統計では、サブサハラアフリカ諸国の小学4年生の就学年齢児童の6割が読み書きが出来ないとされています。さらに、2014年の仏語圏アフリカ初等教育の質に関する共通学力テスト(PASEC)で、調査対象の2年生及び6年生において仏語・算数ともに全10カ国中最下位でした。先進国に比べれば、まだ、学力的には低いアフリカの中でもさらに低い位置にいるということは、いかにニジェールの子どもの学びが遅れているかがわかります。

このような背景から、みんなの学校プロジェクトは教育環境が厳しく、さまざまなことが不足しているニジェールでも学習の質を改善できるモデルを作ろうと考えたのです。そうして、生まれたのが「質のミニмумパッケージ(算数)」です。試行したパイロット校で、1万人以上の生徒の計算能力が改善しました。試行前と後とで、実力テストの正答率が5割改善したのです。このような成果が出た試みは、ニジェールでも他の近隣諸国でもありませんでした。まさに奇跡です。この成果を世銀にアピールして実現したのが、今フェーズ「質のミニмумパッケージ(算数)」のニジェール政府による教育グローバルパートナーシップ(GPE)の資金を使ったティラベリ州3000校への普及なのです。35万人の生徒が裨益するこの試行で成果が出れば、さらに資金が得られ、もっと多くのニジェールの子どもたちがこの取り組みから裨益を受けることができるようになるでしょう。

今回ニジェールでは読み書についてもその改善モデルを試行します。生徒の「読み書き計算」能力を改善できるモデルがニジェールで開発できれば、それが同じような問題を持った国でも必ず効果を発揮するでしょう。なぜなら、ニジェールはその置かれている教育開発の状況が、世界で最も厳しい国のひとつだからです。厳しい条件で機能するモデルは、他の国で実施しても、機能し成果が出る可能性が強いはずです。

私は、昨年、国別研修での講義の機会をいただいて、世界中で同じような試行がないかを調べてみました。さまざまな試行があり、とくにインドのREADINDIA等の試行がみんなの学校の質のミニмумパッケージの試行と似ていると思いました。ただ、成果の度合いに関しては、ひいき目ではなく、みんなの学校の試行の方が上だと思いました。READINDIA

は、多くの世界中の教育プロジェクトを評価したレビューや報告書で Good Practice に紹介され、世界的に評価されたその試行を拡大、改善するため多くの資金が集まっています。一方、みんなの学校のモデルに関しては、そういった紹介は皆無です。

みんなの学校がアフリカの「学習の危機」の処方箋を提供できるように今後も努力をしていきたいと思いますが、その成果をより広く発信し、評価を受け、世界に羽ばたいていくためには、より多くの人や部署の支援が必要であることは言うまでもありません。

どうぞ、今後ともプロジェクトへのご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

## ニジェール国みんなの学校「住民参加による教育開発フェー2」総括 原 雅裕



ニジェール支所からの挨拶を述べる中川企画調査員



会場には多くの関係者・報道陣が集まりました。

そして1月21日(土)に、ニジェールの中等教育大臣をはじめとする関係者を招いたみんなの学校プロジェクト・フェーズ2の立ち上げ式がニアメのアフリカ・ホールにて執り行われました。この模様は、同日の国営放送でも放送され、ニジェール国内においても人々の強い関心と期待が現れているものとみて取れます。また国内紙『Le Sahel』にも、プロジェクトの背景や概要が紹介されています。

(<http://lesahel.org/index.php/societe/item/13426-lancement-de-la-2%C3%A8me-phase-du-projet-dappui-au-d%C3%A9veloppement-de-l%C3%A9ducation-ept-jica--pour-une-meilleure-participation-communautaire-dans-la-gestion-des-%C3%A9tablissements-scolaires>)。

『支所便り』でも、これから随時プロジェクトの最新情報をお届けしていきたいと思ひます。ご期待ください！

## ニジェール国内の出来事 ～ニコニコおじさん、ライバル現る?! ニアメの熾烈な(?)食堂事情～

ニジェール支所から徒歩 10 分ほどのところに、小さな食堂(見た目は小さなほったて小屋)ができたのは、今からおよそ 3 年前。昨年、山形所長がその前を偶然通りかかって見つけ、その店主がいつ行ってもニコニコと客を迎え入れていることから「ニコニコおじさん」と山形所長が命名しました。以来、私もニコニコおじさんのお店と勝手に呼ばせてもらい、出張のたびに胃袋と心を満たしてもらっています。

しかし、ここ数ヶ月で立て続けに 2 軒、しかもニコニコおじさんのお店から両脇十メートル程度のところに食堂ができているではありませんか！ 変化のスピードが決して速いとは言えないニジェールにおいて、これは大事件です。



というわけで今回は、それぞれのお店に直撃インタビュー（プラス、もちろん試食も！）をさせて頂き、ニアメの熾烈な（？）食堂事情をお届けしたいと思います。取材に快く協力して頂いた店主の皆さま、この場を借りてお礼申し上げます。メルシー・ポクー！アイサーブ！ナゴデ・ソーサイ！

表 写真で見るお店比較（2017年1月現在）

店名	LES EPICES DE L'AÏR (通称ニコニコおじさんの店)	Mango Café	RESTAURANT AFRICAN TAJRAFK
外観			
店内	 (※イートインスペース有)		
料理	 (※持ち帰り用パック)		

※料理内容（左から）： chev jjen（セネガル風炊き込みご飯）・鶏もも肉のソテー・オクラソースぶっかけ飯

上の表は、各お店を訪れた際のお店の外観、店内、そして私がその日に注文した料理の写真を比較したものです。ニコニコおじさんの店（以下ニコニコ）は看板もなく、見た目はただのプレハブの小屋なので、うっかりすると見落としそうです。Mango Café（以下 Mango）も、店の入り口付近に置いてある小さな黒板に店の名前が書かれているだけなので、一見何の店か判断しかねます。その点人目を引くのが RESTAURANT AFRICAN TAJRAFK（以下 TAJRAFK）。この店を訪れた数日前にようやくペンキ塗りを終えたばかりと店の従業員さんが話してくれました。

さて、店内に目を移すと、ニコニコは狭い調理場でご主人、奥さん、娘さんの連係プレーでテキパキと注文された品を用意してくれます。その向かいには、小さいながらも5、6名くらいが座れるイートインスペースもあり、私たちが訪れた時も2人の女性がボリュームたっぷりの料理に舌鼓を打っていました。彼女たち曰く、「この店は、安くて、美味しくて、何よりご主人の愛想がいい」と大絶賛。やはり決め手はニコニコおじさんの人柄のようでした。

そして翌日は、向かって右隣りに位置する Mango を訪問。店内に一步足を踏み入ると、『ここは本当にニジェルか！？』と思わせるおしゃれな空間が広がっていました。私たち一行が訪れた時間が若干早かったためか、店内にお客さんはおらず、『これでやっていけるのだろうか？』と心配になりましたが、その後、国際機関等に勤務していると思われる外国人が次々と店に入って来ました。日替わりメニュー（Plats du jour）が5500F（約1000円）ということが、大きく客層に影響しているものと思われます（ちなみに、ニコニコ、TAJRAF は、100円～200円と一般的なニジェルの価格設定）。しかし、この値段だけあって、前菜のサラダにフランスパンもついてきて、料理もなかなか本格的。ニジェルにいながら、ヨーロッパ的

な雰囲気味わいたいならもってこいの場所と言えます。店のオープンは昨年 11 月で、夜はバーになるためお酒も豊富に揃っているようでした(日本のウスキーもある！と店主が自慢していました)。

そして最後に訪れたのが、TAJRAFK。この 1 月にオープンしたばかりの新しいお店です。メニューはオーソドックスなぶっかけ(オクラソース、フォクソースなど)以外にも、セネガル料理(チエブジエン、ヤッサなど)やコートジボアール料理(アチエケ、ラゲーなど)西アフリカを代表する料理が並んでいました。店内のイートインスペースは、こじんまりしてはいるものの、扇風機や冷蔵庫もあり、清潔感があります。すでに数名のお客さんが食事をしており、その後も客足が途切れることはありませんでした。男性 2 人で店を切り盛りしていますが、長時間待たされることもなく、私が注文したオクラソースのぶっかけご飯も油っぽくなく、比較的さっぱりとした日本人好みの味に仕上がっていました。

以上簡単にレビューをしてみました。いずれにしても昼食のバラエティが増えるのは、一消費者として大変喜ばしいことです。最後にニコニコおじさんに、「こんな近くに 2 軒も新しい食堂が出来て、商売が大変になるんじゃないですか？」と質問したところ、「みんなで利益を分かち合えるので、全く問題ないよ。儲けが少しでもあれば、それで満足さ。」と、これまた人情味あふれる返答。これからも、3 店舗仲良く、未永く、お客さんを幸せにする料理を提供し続けて欲しいと思います。

(企画調査員・佐々木夕子)